



毎月1回  
25日発行

# はしもと★ランド

第114号  
2月25日

http://hashimoto-land.com

はしもとランド

検索

■発行・編集・印刷■橋本新聞販売株式会社 企画部 丸岡・高橋  
〒370-0063 高崎市飯玉町42 TEL.027-361-4950 FAX.027-361-5009 e-mail:takahashi@hashimoto-land.com



## 春の息吹を感じながら散歩に出かけてみませんか。



わが街オススメ 3つの散歩コース



III ..... 散歩コース

### 井野川コース

町田橋から井野川に沿って遊歩道を北上、旧17号で折り返し、高駒線から町田橋へ戻る約4キロ、1時間ほどの散歩コース。町田橋は通称メロディ橋とも呼ばれていて、橋の欄干が木琴になっているが、備え付けてあるはずのマレット棒がなく残念ながら叩いてみる事が出来なかった。遊歩道沿いに今が食べ頃の大きな甘夏みかんの実をつけた木や、対照的に小さい実の金柑の木があり散歩の目を楽しませてくれる。次の大橋には、橋の欄干に井野川の昔話がかかれており、竜の彫刻もある。その先は旧17号線にかかる井野川橋。このたもとには井野川橋児童公園があり、休憩場所となる東屋もある。ここを折り返し対岸を南下し引き返す。ふと見ると、釣りの道具を持ち藪を掻き分け川へ降りる人がっていた。話しかけると、鯉を釣りに来たとのこと。60～70センチの大物が釣れることもあるそうだ（※釣りには上州漁業の入漁券が必要）。東部小学校の先には天田堰があり、魚が北上できるように魚道も確保されている。以前この場所にマスが放流され多くの釣り人で賑わう姿を見た記憶がある。その先は川幅が狭くなり、

▼天田堰と井野川遊歩道



天田堰で水の勢いを調節するためか流れもゆるやかになって、高崎駒形線にかかる中井野川橋の手前には鴨が遊ぶ姿が見られた。ここを折り返し北上。細井稲荷の祠と石碑が建ち、この稲荷の出来た由来が書かれている。先人によれば、商売繁盛、無病息災を祈願する信者が城下町より人列を作っていたと聞く。さらに北上すると子どもに人気のくじら森公園があり、東貝井沢地区の土地区画整理事業を記念した石碑と竣工記念の母子像が建っている。



▲区画整理竣工記念母子像

この井野川コースは、高崎と伊勢崎を結ぶ高崎伊勢崎自転車道の一部で、伊勢崎の五料橋から日本一長いサイクリングロード利根川自転車道(170km)に合流すれば、自転車で浦安のディズニーランドまで行くことができる。



▲高崎伊勢崎自転車道の看板



▲メロディ橋

### 染谷川コース

散歩の始めは新保田中町の下沖橋から。橋のたもとに遺跡の説明があり、この一帯は縄文時代から稲作が行われていたとのこと。気をつけなければ見落とすほど小さな可愛い夫婦の道祖神が道の傍に立っていた。ここを北上し、赤い八幡橋を渡ると、村社八幡神社の鳥居と本堂が奉られている。市道10号橋を過ぎさらに進むと白菜やねぎ畑が見受けられる。このあたりは前橋市との境目で、田中橋の角には高前シルク梅園があり、3月に入ると梅の花が咲く地元の名所だ。ここで折り返し、一転南下。下沖橋、善勝寺橋と過ぎ染谷川ポケットパークへ。東屋やベンチも備えた小公園は花が植えられ小休憩に最適だ。さらに南下し関越



▲ポケットパーク



▲高前シルク梅園



▲道祖神

をくぐり松ノ木橋、染谷橋、関の上橋、稲荷木橋まで来て折り返す。広々とした畑の背景には遠く赤城山や榛名山の景色を望め、空気が美味しく自然あふれる、往復5km弱、1時間ほどの散歩コースだ。

### 長野堰コース

長野堰は上野の国主長野氏が戦国時代に作ったといわれ、この一帯の水田に水をもたらしてきた。今回の散歩コースは、芝塚町から高関町の円筒分水堰まで。この季節、長野堰の水量は少ない。スイセンが可憐に咲き、春の訪れを告げている。長野堰の上にはポケットパークが築かれ、側面はモザイク状に色々な絵が描かれている。旧17号線を横切り、行人橋へ。このたもとには諏訪神社が奉られ、春になると桜がきれいに咲き、桜が終わると、長野堰沿いのハナミズキが大振りの花を咲かせ目を楽しませてくれる。行人橋を過ぎると静かな住宅街の中の散歩コースが続き、城東北公民館の手前に、五万石騒動義人の石碑がある。江戸時代の末期、重税に抗議した農民のことが書かれた碑が建っていて、花が供えられていた。さらに南下すると城東小学校の先に円筒分水堰がある。水田に引く水の争いを解決するため、上流から流れる水を一旦下にもぐらせ、下から吹き上げる水を決まった量に振り分ける装置で、現存は珍しい。約1.1km、ゆっくり歩いても30分ほどの散歩コースである。



▲ポケットパーク



▲五万石騒動義人の石碑



▲円筒分水堰



今に残る「本郷埴輪窯址」



カ土晴れの間「土師の辻」

野見宿禰は埴輪の考案者とも言われている。それまでは王が死去すると、家来まで生きたまま埋葬されていたが、これでは残酷極まりないと、人形(埴輪)で代用することを提案したそうである。

能集団の、軽やかな手さばきが見えたような気がした。

藤岡市の土師(どし)神社は相撲の始祖として、日本書紀などに登場する野見宿禰(のみすくね)を祀った神社である。境内には「土師の辻」と呼ばれる土俵があり、明治以降は利用されていないが、江戸時代までは出世力士がここで披露相撲を行うのが慣例だった。それは晴れて幕内に昇進した力士だけに許された特権だったという。

野見宿禰の功績で一族は土師(はじ)姓を賜り、古墳や埴輪作りの中心を担った。埴輪は人物、家屋、武器・農具などをかたどり2千年近く前の古代人の生活を現代に伝える。実物を見た人は誰でもその精巧さと芸術性の高さに驚愕するに違いない。窯址は小屋の中に一部保護され保存されている。当時はもっと多くの職人が働いていたのだらう。現代人も魅了する卓越した技を持つ職能集団の、軽やかな手さばきが見えたような気がした。

相次ぐ不祥事で人気に陰りが見える大相撲だが、私の少年時代は柏鵬の全盛時代で今よりもはるかに注目度が高かった。しかし一方の雄柏戸は怪我が多く休場がちで、実際には大鵬の独壇場だったように記憶している。それでも大鵬の他、起重機明武谷、後の横綱北の富士など私と同郷の個性派力士が暴れ回り、場所中はテレビにかじりついてしまったものだ。

藤岡市は良質な粘土層に恵まれ、古代から瓦の生産が盛んであった。現在でも特産品の一つとして知られる。瓦は埴輪にも利用され、神社近くの本郷埴輪窯址は5世紀後半から6世紀後半に使われたことが確認されている。県内各地の古墳にも副葬品として多数供給されたことだろう。

藤岡市は良質な粘土層に恵まれ、古代から瓦の生産が盛んであった。現在でも特産品の一つとして知られる。瓦は埴輪にも利用され、神社近くの本郷埴輪窯址は5世紀後半から6世紀後半に使われたことが確認されている。県内各地の古墳にも副葬品として多数供給されたことだろう。

藤岡市は良質な粘土層に恵まれ、古代から瓦の生産が盛んであった。現在でも特産品の一つとして知られる。瓦は埴輪にも利用され、神社近くの本郷埴輪窯址は5世紀後半から6世紀後半に使われたことが確認されている。県内各地の古墳にも副葬品として多数供給されたことだろう。

実際に人間を生き埋めにする風習が日本にあつたかどうかは疑わしいが、野見宿禰の「人情味」を伝える「お話」ではある。

実際に人間を生き埋めにする風習が日本にあつたかどうかは疑わしいが、野見宿禰の「人情味」を伝える「お話」ではある。

## 上州をゆく

「相撲の神様」と埴輪のお話

⑥4 ペンネーム 国定忠治(高崎在住)